

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

15. ススキ（イネ科ススキ属）

Miscanthus sinensis Anderss.

2014年10月

丘陵地やため池の土手、畦畔などの日当たりのよい草地に普通に生育する多年草です。稈は高さ1~2m、葉とともに多数そう生して大株になります。葉は線形で長さ50~80cm、幅0.7~2cmで硬く、中肋があり、縁がざらつき、裏面は多少粉白色を帯びます。花は8~10月で花序は頂生の散房状で長さ15~30cm、総は7~多数つけ、基部から小穂をつけます。小穂は披針形で長さ5~7mm、汚黄色を帯び、芒があります。分布は北海道、本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、中国、南千島ですが、北アメリカに帰化しています。全体に小型のタイプが痩せた丘陵地やため池の土手に生育しており、イトススキ（*Miscanthus sinensis* Anderss. forma *gracillimus* (Hitche.) Ohwi）といます。葉の幅が5mm程度で細く、稈も母種の半分程度で花序の総も少数です。ススキは秋の七草のひとつで古くから親しまれ、「をばな」「かや」の名で万葉集に出てきます。類似種にトキワススキ（*Miscanthus floridulus* (Labill.) Warb.）とオギ（*Miscanthus sacchariflorus* (Maxim.) Bentham）があります。トキワススキはススキよりさらに大型で、稈は高さ2m以上にもなり、花も早く7月に穂し、ススキよりも暖地に生え、冬期も枯れないのが特徴です。一方、オギは水辺に群生し、茎は太く大きい多年草で、地下茎は長く地中を這い、稈は地下茎の節から単生し、ススキやトキワススキのように株立ちにならないのが特徴です。



左上：ススキ
右上：トキワススキ
左下：オギ